

アラブ、アフリカ、地中海世界の交差点 チュニジア

Tunisia

遙かなる景色を求めて
チュニジアの南へ。

雄大な砂漠とオアシスの織りなす美しい風景、
歴史ロマン溢れる遺跡、地中海のリゾート……。
チュニジア南部で味わう、未知への旅。

大きなオアシスから生まれた歴史の街。

トズール

アクティブに楽しむ！ 砂漠のツアー。

ドゥーズ

身も心も満たす美しいサハラ砂漠。

クサルギレン

地面の下に掘られた穴の住居。

マトマタ

チュニジアの文化遺産クサル群は必見！

タタウイン

伝説の島で地中海を満喫する。

ジェルバ島



狩の灯を
遙かにサハラ
眠りをり

サハラの夜空は360度地平線の際まで星がひしめいている。時折彼方に明滅するのは兎を追う狩の灯だ。「預言者は必ず砂漠で生まれる。それは砂漠がインスピレーションを与えてくれるから」とチュニジア人は言う。サハラの夜はロマンと神秘に満ちている。



ブーゲンビリア
碧を競ひて
空と海

世界で最も美しい町の一つシディ・ブ・サイドの別称は「白と青の小さな楽園」。白い壁と青い扉の家々が並ぶ小路を抜けると、地中海と空が広がる。碧色の海と空のあわいにはブーゲンビリアが鮮やかに咲き、楽園の美しさをいっそう際立たせていた。

HAIKU

美しきチュニジアの風景をことばに紡ぐ。

チュニジアに魅せられ、サハラフェスティバルへの参加やアラブの詩人たちとの文化交流も行なう俳人・黛まどかさん。チュニジアの北部と南部の思い出とともに句を寄せていただきました。



黛まどか
Mayuzumi Madoka

俳人。2002年『京都の恋』で第2回山本健吉文学賞受賞。近著にエッセイ集『うた、ひとひら』（新日本出版社）、句集『てっぺんの星』（本阿弥書店）など。オペラ『万葉集』『滝の白糸』（作曲：いづれも千住明）の台本執筆など俳句の枠を超えて幅広く活躍。

©OFFICE NATIONAL DU TOURISME TUNISIEN & EMBASSY OF TUNISIA IN JAPAN

チュニジア国家観光局

1, Ave. Mohamed V, Tunis
Tel: 216-71-341-077 Fax: 216-71-341-355
URL: www.tunisietourisme.com.tn

チュニジア大使館観光部

〒102-0074 東京都千代田区九段南3-6-6
Tel: 03-3511-6622 Fax: 03-3511-6600
E-mail: mailbox@tunisia.or.jp URL: www.tunisia.or.jp

<http://gotunisia.jp/>





1:ラクダ以外にも4輪バギーや軽飛行機など、砂漠を楽しむアクティビティはとても豊富。軽飛行機では上空から砂漠を見下ろせ、また違った絶景を楽しむことができる。2:ラクダツアーには現地の人が付き添い、ときにはユーモアも交え旅行者たちを楽しませてくれる。3:ツアー参加者全員で頭から足下まですっぽり覆う民族衣装をまとい、いざ出発。衣装が変わるだけで、気分は砂漠の遊牧民。



アクティブに楽しむ！
砂漠へのツアーは
この街から。

DOUZ (ドゥーズ)

4:野菜や肉をたっぷり使ったスパイスのきいた料理が旅の疲れを癒してくれる。5:オアシスの中のレストラン。美しい布をふんだんに使った豪華なテントのよう。6:スークのある店で飼われていた鷹。チュニジアの砂漠には、フェネックと呼ばれる砂漠のキツネなど野生の動物はいるが、出会う確率はとても低い。7:ナツメヤシの葉で編んだかわいらしいカゴや、色鮮やかな彩色を施した皿など、スークにはチュニジアの工芸品の数々が揃う。



香り豊かなチュニジア料理

TUNISIAN FOOD

地中海に面しているため、肉、魚、野菜などの食材が豊富に揃うチュニジア料理。ヨーロッパとアラブ、アフリカのスタイルが融合し、クミンやコリアンダーなどのスパイス、そして名産でもあるオリーブオイルをたっぷり使うのが特徴だ。素材のうまみと香りが口いっぱいに広がる！

トズールから南東にクルマを走らせていくと、途中で北アフリカ最大の塩湖に出会う。そこで幻想的な光景を堪能したあと、さらにもう少し進むと辿り着くのがドゥーズという街。砂漠の「玄関口」とされる街で、街を少し離れれば、辺りは一面砂漠だけという絶景が広がる。街と砂漠の間には、広いラクダの発着場があり、ラクダに乗って1時間ほど砂漠をめぐる手頃なツアーを一日のうち何度か行っている。気軽に砂漠を楽しめるため、多くの人で賑わって

いるが、特に人気なのは、朝日や夕日を見ることのできる時間帯。さらに、砂漠やオアシスを数日から数週間かけて巡るといって、本格的に砂漠を体験するツアーも行っている。トズールほどではないが、ドゥーズもなかなか規模が大きい街。さらに砂漠のアクティビティを目標に世界中から人が集まるので、ホテルも充実しているし、スーク(市場)などでは買い物も楽しめる。旅行者にとっては過ごしやすい街だといえるだろう。



チュニジア南部の街をめぐり 歴史と文化と自然に触れる。



4:オアシスには、ホテルやカフェが点在するほか、博物館やテーマパークなどもあるので一日いても飽きることがない。



1:南部での旅は4WDとドライバーを手配するのが一般的。2:伝統の日干しレンガを使った建物が残る街並み。レンガが織りなす幾何学模様美しい。3:トズール郊外にある奇岩の絶景。通称ラクダ岩。名画『イングリッシュ・ペイシエント』のロケ地としても人気。



大きなオアシスから
生まれた歴史の街。
南部観光の中心地へ。

TOZEUR (トズール)



5:チュニジアの伝統的な織物をつくるトズールの女性。手作りの温もりが強く感じられるのがチュニジアの工芸品の特徴。6:メディナには雑貨屋も多いので、旅の記念を。7:日干しレンガはいまも伝統の作り方を守り、ひとつひとつ手で作られる。

チュニジア南部の街はもともとオアシスがあった場所につくられたものが多いが、なかでもトズールは、最大規模のオアシスの周囲に、中世の頃より交易の場として栄えた街だ。メディナ(旧市街)では、日干しレンガを用いた当時の建物が数多く残されて風情ある景色を作り出している。土産物店も多いため、織物や雑貨などのショッピングを満喫するためにも、南部の観光ルートの拠点としてぜひ立ち寄りたい。街を囲むように大きなナツメヤシのオアシスが広がっているが、チュニジア名物のナツメヤシのなかでもトズールのものは別格とされ、ナツメヤシの博物館まであるほど。さらに、チュニジア南部の文化や自然に魅せられた欧米人が経営するスモールラグジュアリーホテルも少なくない。ちょっと優雅な旅も味わえるのも魅力だ。

北部の歴史遺産も
見逃せない。

The NORTH PART

(チュニジア北部)

さまざまな文化が交錯してきたチュニジアには世界遺産も多く、古代都市国家カルタゴやローマ時代の遺跡ドゥッガなど、圧巻の遺跡めぐりができる。多くは北部にあるので、南部観光の帰り道に寄りたい。



1: カルタゴは紀元前9世紀に、海の民であるフェニキア人が建設した都市。紀元前3世紀にローマに滅ぼされたが、その後ローマによって再建された。現在残る遺跡の大部分はローマ時代のもの。首都チュニスから10kmほどの場所。2: ドゥッガは標高600mの土地に紀元前4世紀頃に作られた。神殿、劇場、浴場などかつての都市の姿が広範囲に残る珍しい遺跡。

伝説の島で
地中海を満喫する。

ILE DE DJERBA

(ジェルバ島)

ホメロスの一大叙事詩『オデュッセイア』のモデルにもなった地中海を臨む島。白亜のモスクや活気あるスーク(市場)、さらにスパのついた豪華ホテルが並ぶ、理想郷のようなリゾートだ。チュニジア屈指の陶器の産地でもあり、スークには色とりどりに揃う。



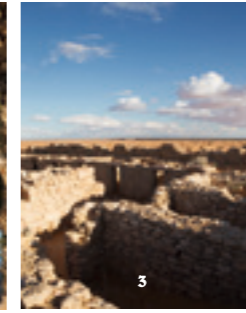
1: 美しい物心をくすぐる色鮮やかな陶器。2: 抜けるような青空に白い建物が映える。3: 車で行くこともできるが、地中海を堪能できる船もおすすめ。4: 島南部にあるゲララ博物館は、チュニジア文化を俯瞰できる民俗博物館。

身も心も満たす
美しきサハラ砂漠。

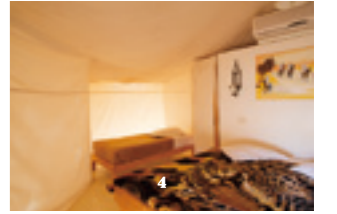
KSAR GHILANE

(クサルギレン)

ドゥーズから南東に車で約2時間ほどのところにある小さなオアシスの集落だが、砂漠を思いきり楽しみたいならぜひ立ち寄り寄ってほしい。旅行者のための施設が多く、レストランやプールのある豪華なテント泊も可能。集落から1歩出ると、そこはサハラ砂漠が広がり、大きな砂丘がいくつも連なっている絶景に出会える。ラクダツアー、4輪バギーなども充実している。



1: 丸い砂丘をいくつも越えていく4輪バギーのカーライドはスポーツのような楽しさ。2: 大きなプールのあるテントホテルもある。砂漠めぐりの後のひと泳ぎは気持ちがいい。3: 少し離れたところにはクサル(遺跡)がある。4: シンプルだが、テントの中はお洒落な空間。空調も備えられているほか、テント内にはシャワーまであるので快適。



チュニジアの文化遺産
クサル群は必見!

TATAOUINE (タタウイン)

小部屋が連なる不思議な土の建造物は、敵から身を守る城壁や食材の貯蔵庫の役割を担った“クサル”。チュニジア紙幣にも描かれるこの文化遺産が、タタウイン周辺には点在。1000年以上も昔ながらの姿を残すもの、カフェとして活用したものなど幅広い。



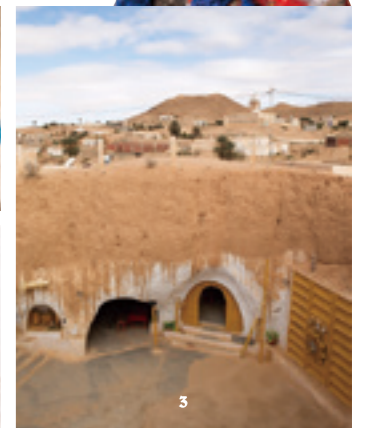
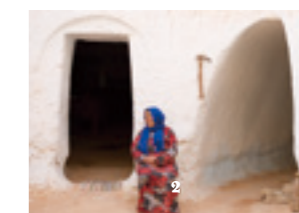
1: 山全体がひとつの村となっているシェニニは、クサルのほかにも横穴式住居や教会などの伝統的な建造物が残され、壮大な景色が広がる。レストランやカフェもあるのでゆっくり楽しめる。2: チュニジアの20ディナール紙幣に採用されたクサル・ウレド・スルタン。写真に見えるような4階建てのクサルは珍しいそう。

地面の下に
掘られた穴の住居。

MATMATA (マトマタ)

ここはSF映画の世界……? マトマタではそんな不思議な光景に遭遇できる。地面に巨大な穴が開いており、そこが住居となっているのだ。北アフリカの先住民・ベルベル人独自の住居形態で、12~13世紀に敵から身を隠すために生まれた様式だという。

遊びにおいで!



1: 家の入口に描かれた魚の絵。内陸部であるこの土地では、昔から魚はお守りであったという。2: 現在も穴居様式の家に住み続ける人は少ない。自家製パンをふるまい旅行者を温かく迎えてくれる人が多い。3: 穴の深さはゆうに5m以上はあり、スリリングな景観。こんなにも大きな穴を掘った先人たちに思いを馳せてみよう。

人気映画の
ロケ地へ!

LOCATION OF MOVIE

チュニジア南部の観光の意外な目玉が、映画『スターウォーズ』のロケ地めぐり。これまで4つのシリーズで、チュニジアが撮影地に選ばれているのだ。マトマタには主人公ルーカ・スカイウォーカーの家という設定のホテルがあり、撮影当時のセットが残っている。また、トズール郊外の砂漠には映画用に作られた街のセットも。チュニジアの自然が地球外の惑星に見える、不思議な体験!

